

①クラミジア感染症について

クラミジア感染症と聞いても良く分からぬ、というのが一般の方の受け取り方だと思います。何となく性交渉でうつる事があり気を付けないといけない、その程度だと思います。しかしこの病気は不妊症にとって非常に厄介な病気です。以下順に説明します。

①自覚症状が出ない

男性は5割程度に症状が出ると比較し、女性がクラミジアに感染性しても2割位しか症状が出ません。その症状もおりものが増えるとかその程度です。そのため病院へ行かないので知らないうちにどんどん悪化してしまいます。卵管へ炎症を起こし、その後骨盤腹膜炎、そして肝臓周囲への炎症という風に広がっていきます。

クラミジアは男女間でお互いに感染させるいわゆる「ピンポン感染」があるため、両者の治療を同時に行うことが重要です。

②不妊症の原因になる

卵管周囲癒着、卵巣周囲癒着、卵管内癒着、卵管水腫、等卵管性の不妊につながります。これは非常に厄介な癒着で自然に治る事はありません。また抗生素を内服してもクラミジア感染は治癒しますが、できてしまった癒着は抗生素では治癒しません。腹腔鏡下に癒着剥離術をする必要があります。

③子宮外妊娠の原因になる

卵管内に癒着が出来ると受精卵が卵管内に着床してしまい子宮外妊娠を起こす率が高くなります。子宮外妊娠の約3割がクラミジアに感染しているというデーターがあります。クラミジア感染は子宮外妊娠の最大のリスク因子になります。体外受精は卵管を使用しないで妊娠できますが、クラミジア感染の既往がある場合は子宮外妊娠のリスクが高いため胚盤胞移植を行いそのリスクを減らしていきます。

④妊娠後子供への感染の恐れがある

新生児クラミジア感染症:以下の特徴があります

- (1)新生児 結膜炎:母子感染例の 25~50%に発症。生後 5~10 日に発症。
 - (2)新生児肺炎:母子感染例の 10~20%に発症。生後 1~3 ヶ月に発症。発熱せず、咳が主症状。結膜炎を伴うことが多い。
- また絨毛膜羊膜炎をおこし流産、早産の原因にもなります